

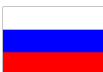
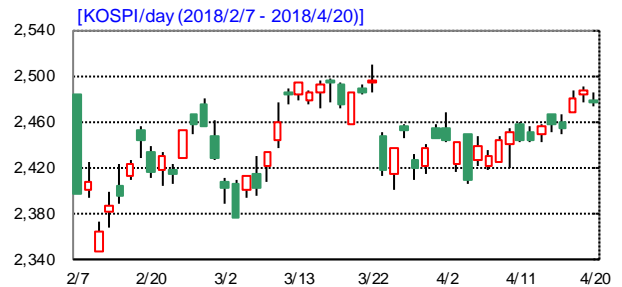


【韓国】 総合指数は週間で0.9%高と続伸、首脳会談への期待で買い優勢

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.9%高と続伸。週明け16-17日は前週終値の2455ポイントを挟んだ一進一退の小動きだったが、18-19日に続伸し、19日には3月22日以来、約1カ月ぶりの高値を付けた。27日に開催を控えた南北首脳会談で戦争状態の終結をうたう平和協定の締結に向けて協議すると伝わり、朝鮮半島情勢の安定への期待が高まった。時価総額の大きいサムスン電子や半導体のSKハイニックスなどが買われ、相場を押し上げた。一方、20日は反落して週取引を終えた。台湾積体回路製造(TSMC)が示した弱気の業績見通しを受け、スマートフォンや半導体需要の鈍化が懸念された。今週は27日の南北首脳会談を前に、様子見気分が強まる可能性も。26日に国内総生産(GDP)、27日に景況判断が発表される。

▼指数チャート

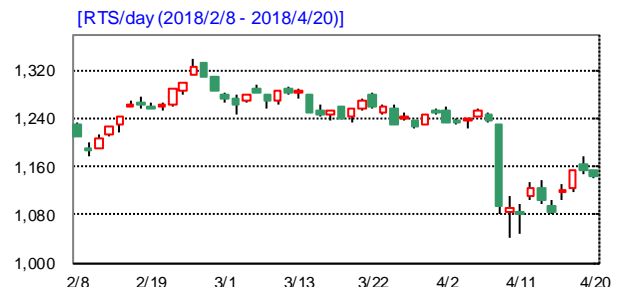


【ロシア】 RTS 指数は週間で3.7%高と4週ぶり大幅反発、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.7%高と大幅に4週ぶりに反発した。ロシア議会在米国などの対ロ経済制裁に対する報復を見送ったことや、米政府が追加の対ロ制裁を当分の間見送ると報じられたことが好感された。ロシア議会在前週に西側諸国による制裁に対して幅広い報復措置をとることで合意したが、経済界からの反対を受けて報復の見送りを決定。これを受けて17日のRTS指数は3.3%高と大幅反発。18日にはインターファックス通信とタス通信が、米ホワイトハウスが在米ロシア大使館に追加の対ロ制裁を当分見送るとの書簡を送ったと報道。安心感がさらに広がり、指数は2.9%高と続伸した。19-20日は伸び悩んだが、それでも週間上昇率は3.7%に達した。今週は西側諸国との関係悪化懸念後退を背景に底堅い展開か。

▼指数チャート

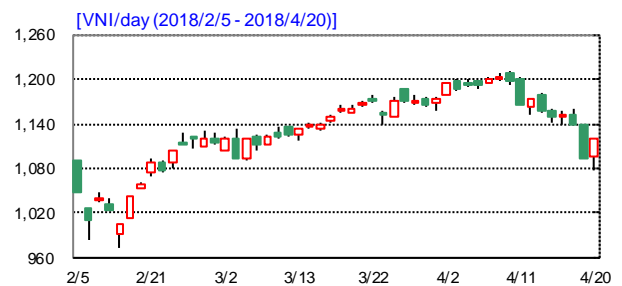


【ベトナム】 VN 指数は週間で3.2%安と大幅続落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で3.2%安と大幅続落。高値警戒感によるスピード調整が続いたほか、ビンググループの子会社IPO計画が伝わり資金吸収懸念も重しとなった。前週に9週ぶりに反落したベトナム市場は週初の16-17日も上値の重い展開が続き、18-19日に下落幅を拡大した。18日は時価総額4位のベトナムバンクなど金融株が下落し、指数は1.3%安。19日は住宅部門のIPO計画が伝えられた時価総額首位のビンググループが6.9%安となり、指数は3.9%安と大幅に続落。3月6日以来初めて1100ポイントを割り込んだ。20日は1078.01ポイントまで下値を広げ、4月10日の史上最高値から11%超下落し「調整相場」入り。その後買い戻しが優勢となり2.3%高と反発したが、週間では大幅続落となった。今週はもみ合いか。

▼指数チャート

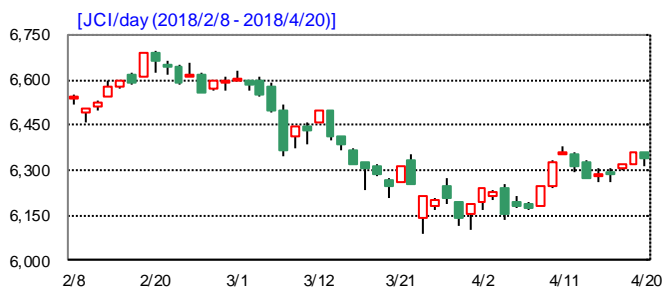


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.1%高、3月の貿易収支は3カ月ぶりに黒字を回復

ジャカルタ総合指数は週間で 1.1%高と続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の 16 日は 3 月の貿易収支が 3 カ月ぶりに黒字を回復したことが好感され、反発してスタート。17 日は小幅に反落したが、18 日に素材関連株と金融株が買われて指数が終値ベースで 4 営業日ぶりに 6300 ポイントを回復すると、19 日も続伸。同日の取引終了後に発表された政策金利は、市場予想通り 7 会合連続で 4.25%に据え置かれた。ただ、20 日は消費関連株が売られ、3 日ぶりに反落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。原油価格の上昇が続けば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート

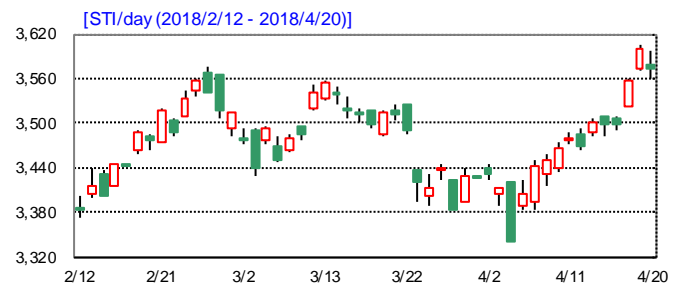


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.1%高、約 3 カ月ぶりの高値更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.1%高と 4 週続伸。週半ばからの上昇が上げ幅を広げた。週初の 16 日は、前週末に米英仏が合同でシリアを空爆し、地政学リスクが高まったことが嫌気されて反落。17 日は 3 月の非石油地場輸出が前年同月比 2.7%減と 2 カ月連続でマイナスだったものの影響は軽微で、小幅ながら反発した。18 日は金融株が買われて、終値で前日比 1.7%高。19 日は場中に一時、3600 ポイントに到達し、終値でも前日比 1.1%高と約 3 カ月ぶりの高値を更新したが、20 日はテクノロジー株が売られ、4 日ぶりに反落して引けた。今週は 23 日に 3 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される。

▼指数チャート

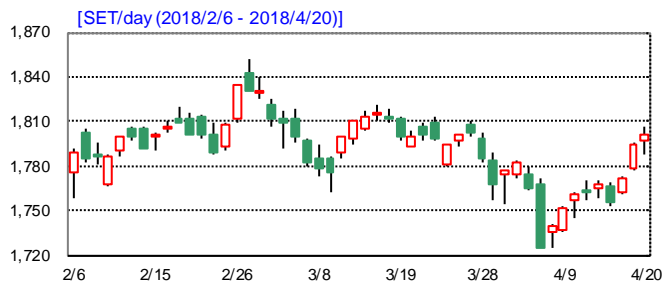


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.9%高、今週は 3 月の貿易統計が焦点

SET 指数は 4 日間の取引で 1.9%高と続伸。国内の経済指標発表が少ない中、週半ばからじりじりと上値を広げた。連休明けの 17 日は、中国の 1-3 月期の固定資産投資と 3 月の鉱工業生産が市場予想から下振れしたことが嫌気されて 6 営業日ぶりに反落。一方、18 日は前日の米株相場が主要企業の好決算を背景に続伸した流れで反発した。19 日はブレント原油先物価格が値上がりしたことを受けてエネルギー株が指数上昇をけん引し、指数は終値で前日比 1.3%高。20 日は 3 営業日続伸となり、1800 ポイントを回復して取引を終えた。今週は 23 日に発表される 3 月の貿易統計（通関ベース）に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

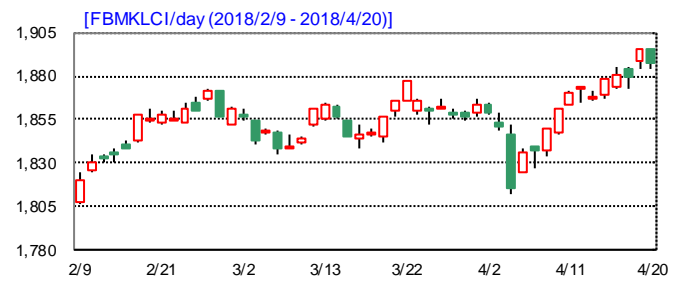


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%高、19 日に終値ベースの過去最高値を更新

クアラルンプール総合指数は週間で 1.0%高と続伸。好地合いの中、おおむね堅調に推移した。週初の 16 日に反発すると、18 日まで小幅なレンジでもみ合ったが、19 日はアルミニウムと原油の価格上昇を受けてペトロナス・ダガンガンなどの関連銘柄が買われ、指数は終値で 14 年 7 月以来、3 年 9 カ月ぶりに過去最高値を更新。ただ、20 日は利益確定売りに加え、半導体受託生産の台湾積体電路製造（TSMC）がスマホ需要の低下を理由に売上高の目標を引き下げたことも嫌気され、反落して引けた。5 月 9 日の下院議会総選挙を前に外国人投資家による資金流入が続く中、今週も指数のさらなる上昇が期待される。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。